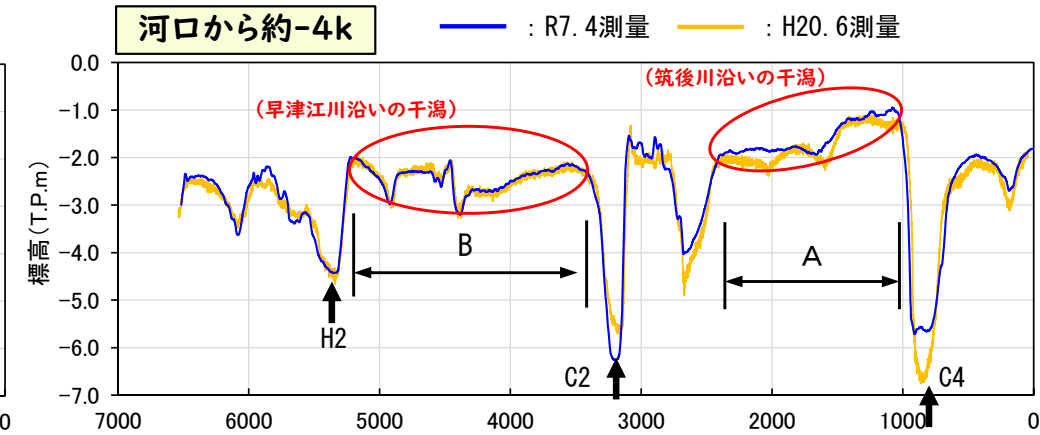
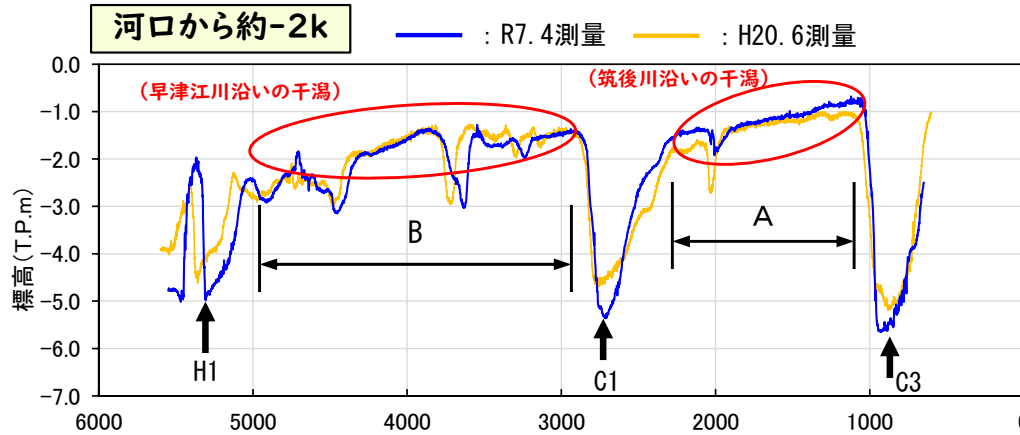


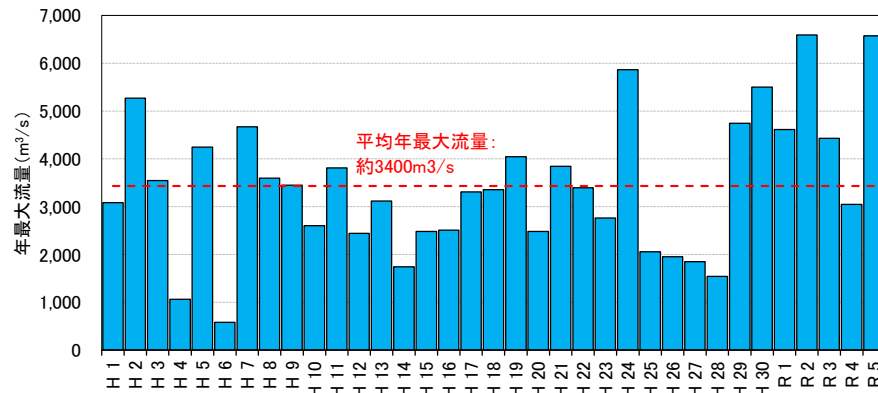
筑後川下流域の土砂動態(海域) 滞筋以外の区間について

- R7測量とH20測量における筑後川沿いの干潟の差分値は、河口から-2kで最大1.24m、平均0.18m、-4kで最大0.45m、平均0.17mである。
- R7測量とH20測量における早津江川沿いの干潟の差分値は、河口から-2kで最大0.90m、平均-0.09m、-4kで最大0.29m、平均-0.01mである。
- 土砂変動量(H20~R7)について、平均断面で算出した結果、筑後川沿いの干潟(Aエリア)では約263千 m^3 堆積、早津江川沿いの干潟(Bエリア)では約-116千 m^3 低下となる。
- 筑後川沿い及び早津江川沿いの干潟全体では、約147千 m^3 堆積している。

■横断形状の変化 ※満潮時の深浅測量結果



■瀬ノ下年最大流量



■調査位置図

